

東北大学のA0入試における書類審査と入学前教育に対する高校側の意見

○倉元直樹（東北大学）
久保沙織（東北大学）

宮本友弘（東北大学）
長濱裕幸#（東北大学）

キーワード：総合型選抜、選抜資料、入学前教育

問題と目的

東北大学のA0入試は2000年度入試に導入され、2022年度入試が23回目となった。2009年度入試から全学部で実施されている。2021年度入試から入試区分の公式名称が「総合型選抜」となったが、東北大学では略称「A0入試」に変更はない。2014年度で推薦が廃止、一般選抜とA0入試が主要入試区分となっている。A0入試には10月募集、11月選抜実施で第1次選考に独自の筆記試験を課す「A0Ⅱ期」と1月募集、2月に選抜実施で第1次選考に大学入学共通テストを課す「A0Ⅲ期」がある。学部や募集単位毎に独自のアドミッション・ポリシーがあり、選抜方法も異なることが特色だが、志願者への分かり易さを重視して全学共通の基本コンセプトと実施体制が整備されてきた。

東北大学入試センターでは2017年度から東北大学の入試の特定課題に関する高校調査を実施している。5回目となる2021年度調査では2025年度開始の新指導要領の下での入試と東北大学のA0入試の方針について調査を行った。前者は倉元・宮本・久保・長濱(2022)等で報告した。本研究は後者について報告する。

課題の1つは書類審査のタイミングである。Ⅱ期、Ⅲ期とも第1次選考は学習成果を筆記試験で問い、第2次選考は面接試験で関心・意欲等を問う。書類審査をどの段階で課すかは募集単位で異なる。第1次選考で課すとコンセプトが曖昧になる。第2次選考で課すと第1次選考不合格の受験者の書類審査が行われない。もう1つは早期に合格が決まるA0Ⅱ期の入学前教育についてである。東北大学では希望者に対する入学前の短期留学など、入学前教育には力を入れてきた。現在、高大連携プログラムの一環として、大学の授業を高校生に開放する試みが進んでいる。従来から実施してきた入学前教育をさらに推進する契機であるが、入学前教育の拡充は高校側にもニーズがあるのだろうか。

方 法

調査対象者・調査方法

例年の調査に準じ、全国の高等学校、中等教育学校及び高等専門学校のうち、東北大学に志願者、合格者を多数輩出する高等学校等330校を調査対象とした。

調査方法は倉元ほか(2022)の通り。

集計方法

例年と同様、単純集計のほか、A0Ⅱ期及びⅢ期の志願者数、合格者数を重みとして用いた。

結果と考察

書類審査のタイミング

Table 1に示す通り、「1次」と「どちらでもよい」に二分される。重みによる違いは見られない。

Table 1 書類審査を課すタイミング

	1次	2次	どちらでも	その他	無回答
単純集計	34.4%	8.9%	51.9%	3.7%	1.1%
全志願者	30.4%	8.9%	50.1%	4.2%	6.3%
全合格者	30.5%	8.7%	51.1%	3.9%	5.8%
A0Ⅱ志願	34.6%	10.5%	45.5%	5.6%	3.7%
A0Ⅱ合格	34.3%	10.8%	46.2%	4.9%	3.8%
A0Ⅲ志願	29.8%	8.9%	51.2%	4.0%	6.1%
A0Ⅲ合格	29.4%	8.7%	50.0%	4.4%	7.5%

A0Ⅱ期の入学前教育

Table 2に示す通り、「積極的に行うべき」との意見が大半を占めた。特に、対象者であるA0Ⅱ期志願者及び合格者を多数輩出する高校にその傾向が強い。

Table 2 A0入試Ⅱ期の入学前教育

	積極的	控えめ	どちらでも	その他	無回答
単純集計	67.4%	12.6%	15.6%	4.4%	0.0%
全志願者	69.1%	12.2%	12.4%	6.3%	0.0%
全合格者	69.5%	11.3%	12.7%	6.5%	0.0%
A0Ⅱ志願	82.0%	5.4%	8.2%	4.4%	0.0%
A0Ⅱ合格	84.2%	4.5%	7.1%	4.1%	0.0%
A0Ⅲ志願	72.0%	12.9%	8.8%	6.2%	0.0%
A0Ⅲ合格	75.9%	10.7%	7.0%	6.5%	0.0%

以上の結果を踏まえつつ、今後の実施体制を整備すべく検討することが今後の課題である。

引用文献

倉元直樹・宮本友弘・久保沙織・長濱裕幸(2022). 学習指導要領の下での大学入試—高校調査から見えてきた課題—全国大学入学者選抜研究連絡協議会第17回大会研究発表予稿集, 60-65.

付 記

本研究はJSPS科研費JP20K20421の助成による研究成果の一環である。